カルマの法則 ~ 番外編 ~ 健全なる不良高校生

古三門古角

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カルマの法則〜番外編〜健全なる不良高校生

【Nコード】

N7846Y

【作者名】

古三門古角

【あらすじ】

十年前、初代リーダーが抜ける時に言った一言でグループが変わった。今まであったルールは崩れ去り、名前は無くなり、頂点を取る為グループの中で派閥ができ、そして争い、誰もまだ頂点を取っていない。

そんな時、ある一人の不良がいた。

プロローグ（前書き）

この作品はカルマの法則の番外編です。

この作品の主人公は、カルマの法則では悪役（？）です。

不良ヤンキーものとは少し違ったものになるかもしれせん。

注意！カルマの法則のように能力者ものではありません！

！カルマの法則の方を優先するので更新は不定期になるかもし
れません！

プロローグ

廃ビルの中にある劇場として使われていたホールに、百五十人と一人がいた。

そいつらを二文字で言うなら、不良。四文字で言うなら、チンピラ。

その不良たちが、集まるホールの台の上に、一人の男が立っていた。「お前らに話がある」

その男がホールの中にいる、総勢百五十人に向かって言い放った。劇場の中にいる不良たちは、ざわめく。

そのざわめく不良たちを見て、ニヤリと笑う男。

そして、そんな男が言う。

「親愛なる馬鹿どもへ、俺はこのグループを卒業する。このグループは俺達が拳一つで作り上げ、ここまで壮大なグループとなった。だが次の後継者、つまり次のリーダーはまだ決めていない。この事はテメエらには分かると思う、このままいけば解散になるかもしれないという事が」

この場にいる不良達は息が詰まり、そして静まり返る。

「だがこのチーム、グループは解散しない。むしろ新たななる挑戦をする」

この場にいたもの皆全てが固唾を飲んだ。

「俺達はいわばごろつき、未来に夢を持っていない奴もいると思う。だから最後にプレゼントだ。俺からテメエらに夢を与えてやる」

不良達の心は緊張と高揚で胸躍らせる。

これからいったい何が起こるのか、

これからいったいリーダーはどんな夢を与えてくれるのか、これから自分たちに起こる新たななる挑戦に心躍らせる。

「夢はいいもんだ。夢を追うだけで人は強くなる。だから俺からテメエらに夢を与える。その夢、それはこのグループだ」

演壇の上に立つ男は深呼吸をしてから、高らかに声を張り上げる。
「自分の拳一つで、勝ち取れ頂点を、勝ち取れ夢を、勝ち取れ自分の生きざまを、そして強くなれ、そいつを勝ち取った奴が次のリーダーだ。その次のリーダーが、このグループの全てを決める、これで俺の仕事は終わりだ　以上」

その瞬間にして、地面を揺らす怒涛の歓声上がり、戦いの幕が切って落とされた。

俺は健全なる不良高校生だ

ある街にある総合アミューズメントパークと化しているビルが一つあった。そこはカラオケ、ボーリング、ゲームセンターなどがある為、よく学生が遊ぶ場所とされている。

そのビルの一階のドリンクバーで、おっさんと紺色のブレザーを着た中学生が話していた。

「『この街の一番強い奴は誰ですか』、だあ、そんなこと聞くなんで、お前どうかしてるぞ」

おっさんはコップを拭きながら答える。

「お願いします、教えてください。この街の一番強い奴に、俺は用があるんですよ」

頼み込んでいる中学生の根気に折れたのか、おっさんは仕方ねえなあ、と言ってししぶしぶ話す。

「まず言うが、お前はこの街の不良の勢力図を知っているか」

大の大人がこんなこと話すなんて悲しくなってきたな、など、おっさんはぶつぶつ言いながらコップを磨く。

「まったく知りません。だから、こう言う不良が集まるたまり場の顔役、つまりあなたに聞いてるんですよ」

「不良が集まるたまり場って、とこが気に喰わねえが、商売の邪魔だから教えてやるよ。この街の不良達は三大勢力で分かれてやがる。その三つの内のまず一つが、DROPS。一言で言うとなだの暴走族だ。だが、その一代目リーダーが、最強すぎていまだに恐れられ、その後継者と言われる三代目リーダー、『鉄拳の赤城』が仕切り、この街で喰りを上げている。次はKEEP OUT、こいつ等に関しては分からない、客として来ないからな。それに目撃証言はないが噂だけが流れているグループだ」

「それってこの場所が人気ないだけじゃ……」

「なんつった！」

「……すみません。話し続けてください」

中学生はおっさんの迫力ある怒号により黙った。

「そして今一番活気づいていんのは、NO name、またの名を名無し、つまりあれだ、本当に名前が無いグループ」

「名前がないってどういう事ですか？」

「このグループ、最初は名前があっただが、初代リーダーが抜ける時に言った一言で変わったんだよ、グループが。今まであいつらにあったルールは崩れ去り、名前は無くなり、頂点を取る為グループの中で派閥ができ、そして争い、誰もまだ頂点を取っていない。たぶん、そこに強者がゴロゴロしているだろうから、そいつら探してみろ」

おっさんはコップを拭き終わり新たなコップに手を掛けながら言った。

中学生は一礼して、

「そうですか、ありがとうございます」

中学生は意味ありげな笑みを浮かべ、出口へ向かおうとした。

おっさんが中学生を呼び止める。

「ちよつと待て、あんたの名前は」

「俺は」

中学生が名前を言おうとした、その時。

中学生の声は大きな音によって遮られた。

ドリンクバーの近くにあった部屋から怒号のような音が聞こえてきたのだ。そしてドアが勢いよく蹴り破られ、蹴り破られたドアと引っしよに、この街でよく見かける不良が宙に舞い飛ばされてきた。不良は地面に衝突してからゴロゴロと転がってドリンクバーの壁の台にぶつかった。それから不良は頭をふらつかせながら、飛ばされた部屋の方向に視線をやる。

その視線の方向に、ある一人の男がいた。

その男は、学ランでその中に黒いジャージを着ており、髪型は襟

足が長く全体的に後ろに逆立った髪型、体つきはシャープながらも鍛えられ筋肉が付いている、そんな男。

その男が指の骨を鳴らしながら、不良に向かって言う。

「ここは全面禁煙だって、そう書いてるだろうがルール守れ」

「不良がそんなこと、かたんじゃねエツ」

今地面に腰を突けている不良からしたら、この学ランを着た男は不良だ。そして不良だと言うにもかかわらず、不良が不良に、社会の規律だとか、ルールを守れ、だとか、言われるのは冗談にしても甚だしい。

まず、初対面の相手ならば尚更だ。

「フーか、お前誰だ？」

「俺は健全なる不良高校生だ」

「はあ、健全なる不良高校生って何だよ」

「ルールを守らないやつが嫌いな不良だ、ボケ」

そう不良高校生の男が言った。

その直後、不良高校生は尻もちを突いている男に向かって拳を振りかざす。殴られた男はその場で伸びた。

「あゝめんどくせえ、なんでこつちも馬鹿ばつかなんだ。このグルーブは」

「……」

中学生は唐突に起きた出来事を眺めていた。

「こいつどこの派閥だ」

「やっぱいな、黒のところかよ。やちまったな。ルール守らなかつたのこいつだし、まあ、いつか」

その時、ガラスが割れた音がした。違う、店長があまりの握力でグラスを割ってしまったのだ。中学生は店長の方を見ると、眉間にしわが深く刻まれ、厳つい店長の顔がさらに怖くなる。

「じゃあお前もドアを蹴り破るもんじゃなくて、普通に開けるっていうルールを守れ、白木」

「やっべ、店長だ。めんどくせえことになっちまったな」

「ドアを直しやがれ」

店長の怒号が響き渡り、不良高校生は逃げて行った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7846y/>

カルマの法則～番外編～健全なる不良高校生

2011年11月28日02時45分発行